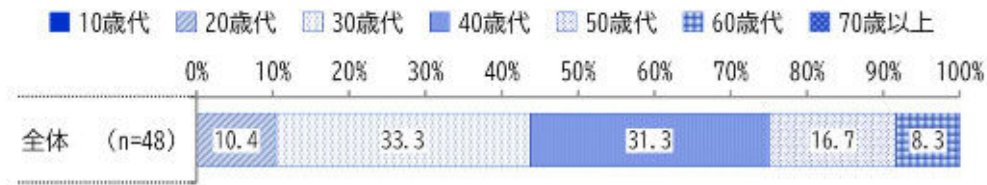


第2章 アンケート調査結果

1) DV被害者

問1 あなたの年齢を教えてください。

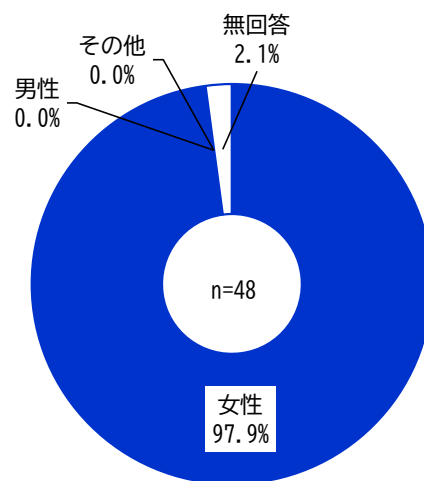
年齢について聞いたところ、「30歳代」が16人（33.3%）で最も多く、次いで「40歳代」が15人（31.3%）、「50歳代」が8人（16.7%）となっています。



問2 あなたの性別を教えてください。

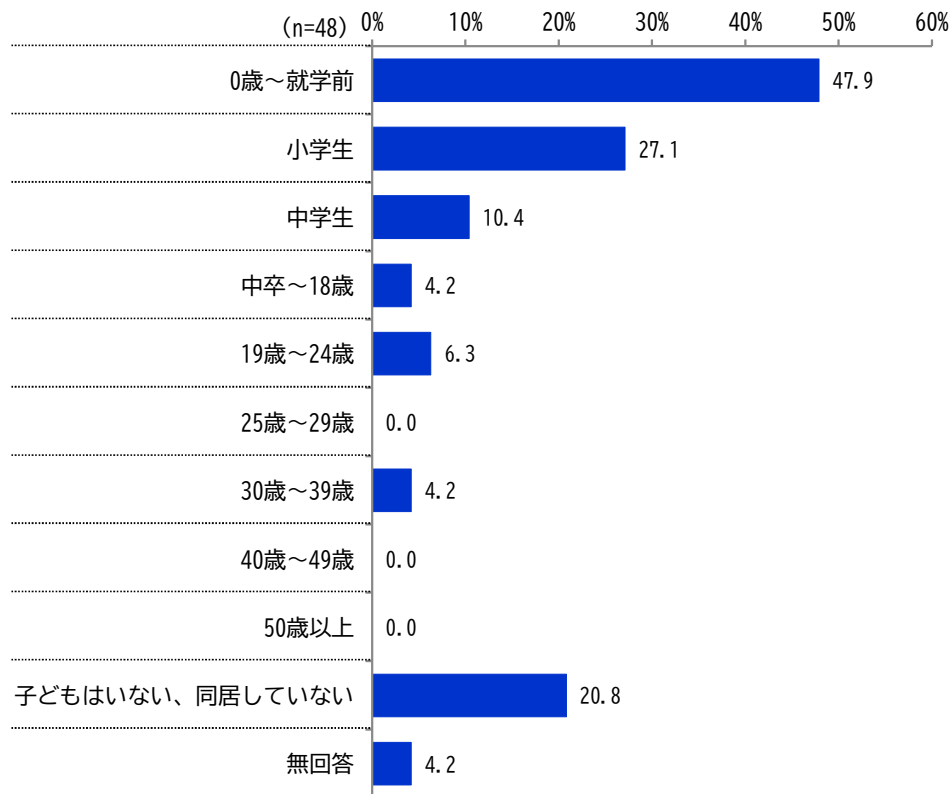
性別について聞いたところ、「女性」が47人（97.9%）となっています。

※無回答 1名を除き回答者は全員女性。



問 3 お子さんをお持ちで、お子さんと同居されている方にお聞きします。あなたのお子さんの年齢にあてはまるものを教えてください。（あてはまるものすべて） お子さんをお持ちでなかったり、お子さんと同居されていない方は「子どもはいない、同居していない」に○をつけてください。

同居されているお子さんの年齢について複数回答で聞いたところ、「0歳～就学前」が23人(47.9%)で最も多く、次いで「小学生」が13人(27.1%)、「子どもはいない、同居していない」が10人(20.8%)となっています。



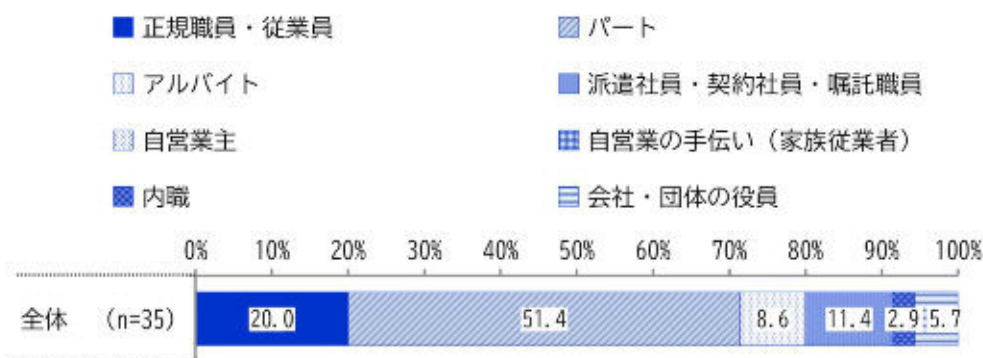
問 4 あなたのお仕事を教えてください。複数のお仕事をしている場合には、主なお仕事（労働時間が最も長い仕事）についてお答えください。専業主婦の方や学生でアルバイトなどをしていない場合は「就労していない」に○をつけてください。

現在の就労状況について聞いたところ、「就労している」が35人（72.9%）、「就労していない」が13人（27.1%）となっています。



現在、『就労している』と答えた人35人に主なお仕事について聞いたところ、「パート」が18人（51.4%）で最も多く、次いで、「正規職員・従業員」が7人（20.0%）、「派遣社員・契約社員・嘱託職員」が4人（11.4%）となっています。

さらに、就労していない人13人に現在の求職状況について聞いたところ、「現在、求職中」が7人（53.8%）、「現在、求職していない」が6人（46.2%）となっています。



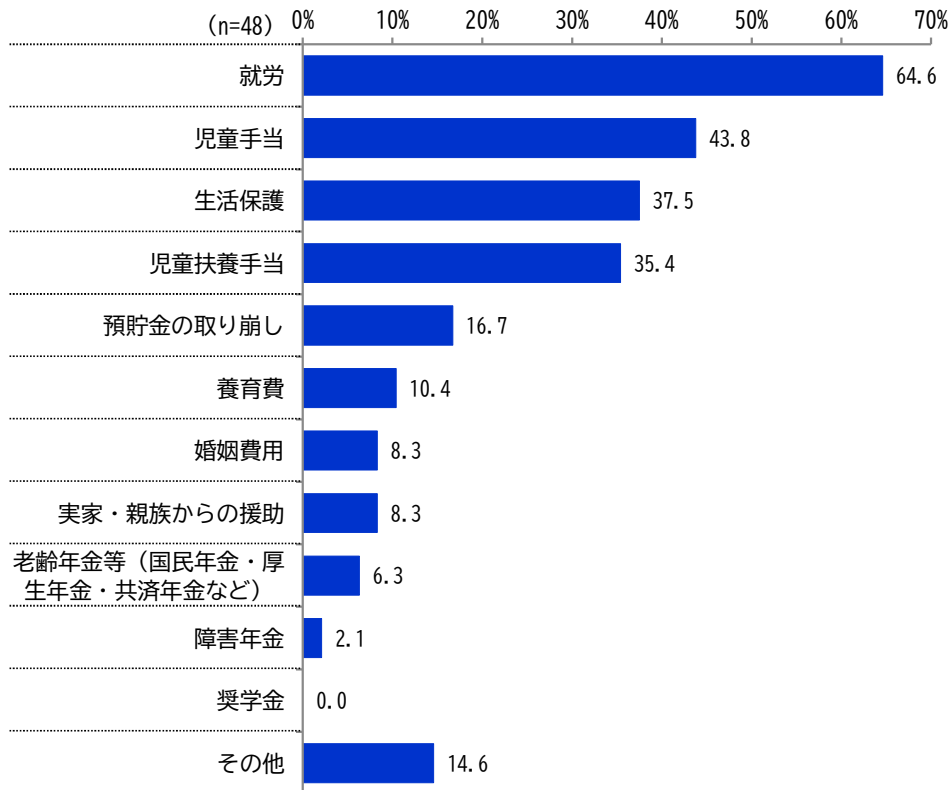
問 5 あなた自身の今の年収について教えてください。手取りではなく、税金や社会保険料などを含めた総支給額でお答えください。（手取りが230～240万円位の方の年収はおよそ300万円です。）なお、公的年金・恩給、雇用保険、児童手当等、その他の社会保険保障給付金は含みません。

ご自身の今の年収について聞いたところ、「100万円未満」が17人（35.4%）で最も多く、次いで「100～200万円未満」が12人（25.0%）、「なし」が7人（14.6%）となっています。



問 6 あなたは生活費をどのようにまかなっていますか。(あてはまるものすべて)

生活費のまかない方について複数回答で聞いたところ、「就労」が31人(64.6%)で最も多く、次いで「児童手当」が21人(43.8%)、「生活保護」が18人(37.5%)となっています。



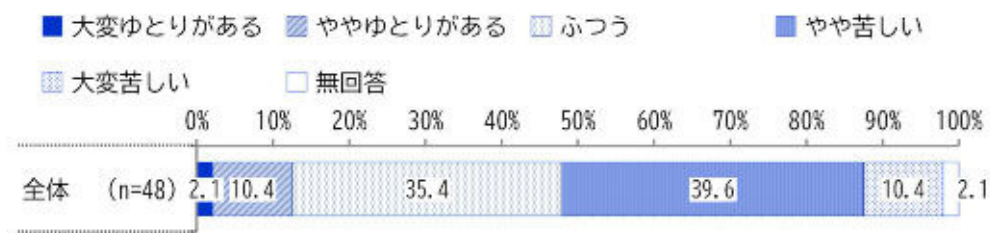
その他の自由記述の内容

- ・ 財団からの借入金
- ・ 求職者給付
- ・ 個人年金
- ・ 夫の給料

問 7 あなたは現在生活している家庭の家計の状況をどのように感じていますか。

現在の家庭の家計状況について聞いたところ、「やや苦しい」が19人(39.6%)で最も多く、次いで「ふつう」が17人(35.4%)、「ややゆとりがある」「大変苦しい」がともに5人(10.4%)となっています。

また、「やや苦しい」と「大変苦しい」をあわせた“苦しい”が24人(50.0%)で、半数が苦しいと感じています。



問 8 ここ 1 カ月くらいの最近の体調を教えてください。

最近の体調について聞いたところ、「少し悪い」が14人(29.2%)で最も多く、次いで「ふつう」が11人(22.9%)、「良い」が10人(20.8%)となっています。

また、「少し悪い」と「悪い」(7人、14.6%)をあわせた“悪い”が21人(43.8%)で、4割以上が体調が悪いと感じています。

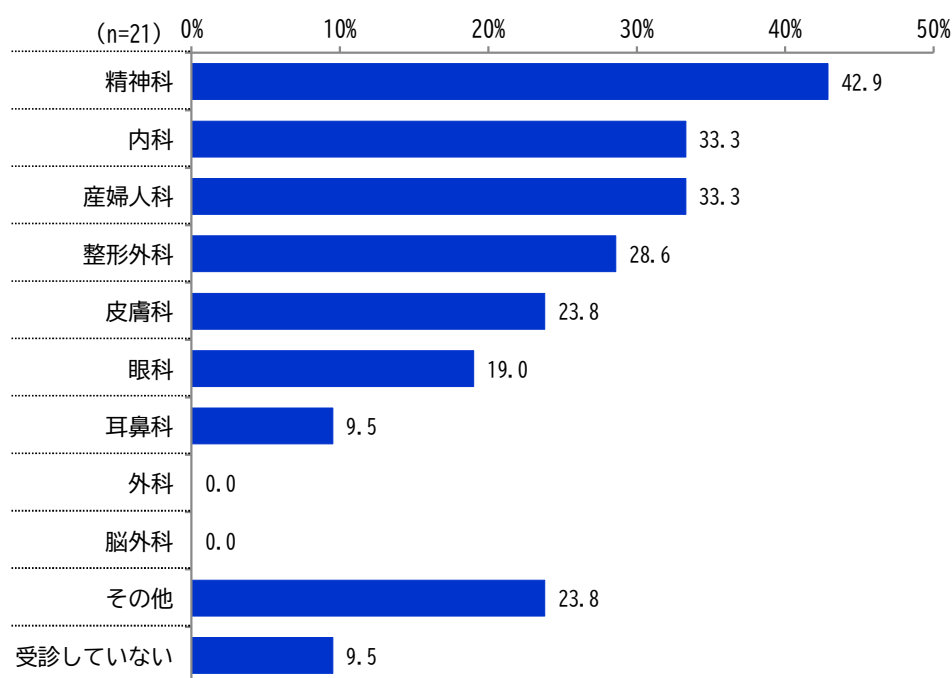


問 8 で「4. 少し悪い」「5. 悪い」と答えた方にお聞きします。

問 8-1 現在受診している医療機関の診療科目を教えてください。(あてはまるものすべて)

受診している医療機関がない場合は、「受診していない」に○をつけてください。

現在の体調で『少し悪い』『悪い』と答えた人21人に現在受診している医療機関の診療科目について複数回答で聞いたところ、「精神科」が9人(42.9%)で最も多く、次いで「内科」「産婦人科」がともに7人(33.3%)、「整形外科」が6人(28.6%)となっています。

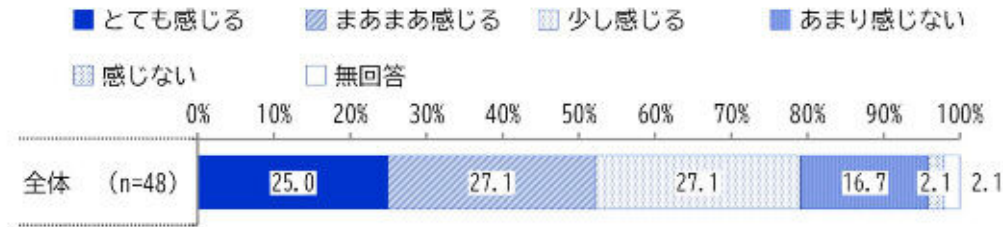


その他の自由記述の内容

- ・ 歯科 (2)
- ・ ハリ
- ・ 心療内科

問 9 あなたは現在、ストレスや生きづらさを感じていますか。

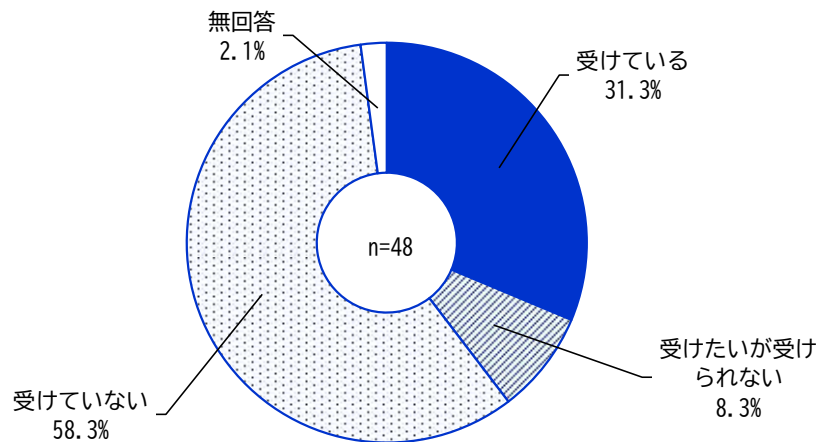
現在のストレスや生きづらさについて聞いたところ、「まあまあ感じる」「少し感じる」がともに 13 人（27.1%）で最も多く、次いで「とても感じる」が 12 人（25.0%）、「あまり感じない」が 8 人（16.7%）となっています。



問 10 あなたは、現在、心理的ケア（カウンセリングなど）を受けていますか。

現在、心理的ケア（カウンセリングなど）を受けているかについて聞いたところ、「受けていない」が 28 人（58.3%）、「受けている」が 15 人（31.3%）となっています。

さらに現在、心理的ケアを『受けている』と答えた人 15 人に受診頻度について聞いたところ、「月に 1～2 回程度」が 10 人（66.7%）で最も多く、次いで「週に 1 回程度」が 4 人（26.7%）、「数ヶ月に 1 回程度」が 1 人（6.7%）となっています。

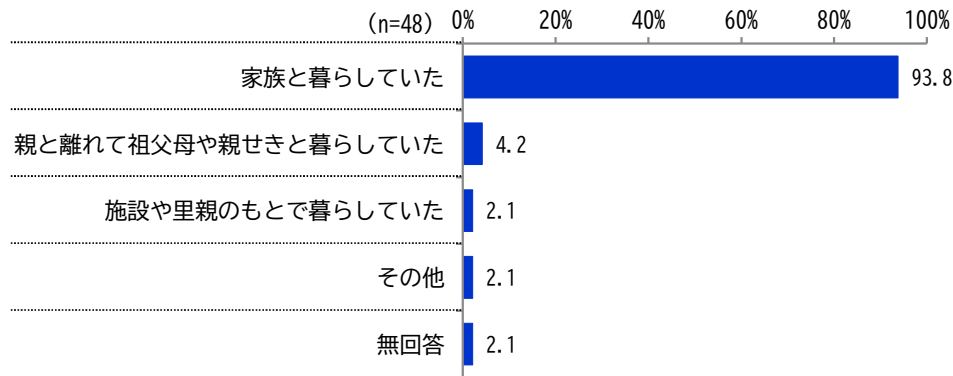


「受けたいが受けられない」の理由

- ・ 時間の余裕とお金の余裕がないため。
- ・ どこで受けたらいいかわからないため。
- ・ 離婚成立まで扶養から抜けることが難しく、夫に受診先を知られてしまうため。

問 11 あなたが 18 歳になるまでの環境を教えてください。（あてはまるものすべて）

ご自身が 18 歳になるまでの環境について複数回答で聞いたところ、「家族と暮らしていた」が 45 人（93.8%）で最も多く、次いで「親と離れて祖父母や親せきと暮らしていた」が 2 人（4.2%）となっています。



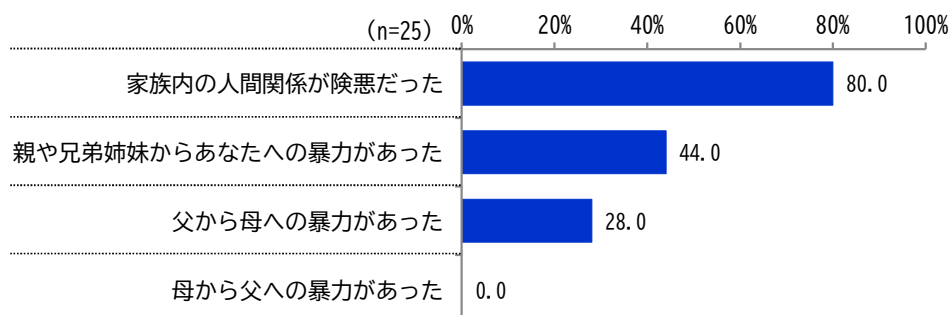
問 11 で「家族と暮らしていた」と答えた方にお聞きします。

問 11－ 1 その期間で以下のような経験がありましたか。（あてはまるものすべて）

自身が 18 歳になるまでの環境で『家族と暮らしていた』と答えた人 45 人に、その期間に受けた暴力等の経験について聞いたところ、「暴力等の経験がある」が 25 人（55.6%）、「暴力等の経験はない」が 20 人（44.4%）となっています。



ご自身が 18 歳になるまでの環境で『家族と暮らしていた』と答えた人の中で『暴力等の経験がある』と答えた人 25 人に、その経験の内容について複数回答で聞いたところ、「家族内の人間関係が険悪だった」が 20 人（80.0%）で最も多く、次いで「親や兄弟姉妹からあなたへの暴力があった」が 11 人（44.0%）、「父から母への暴力があった」が 7 人（28.0%）となっています。



問11で「2. 親と離れて祖父母や親せきと暮らしていた」と答えた方にお聞きます。

問11-2 その期間で以下のような経験がありましたか。(あてはまるものすべて)

ご自身が18歳になるまでの環境で『親と離れて祖父母や親せきと暮らしていた』と答えた人が2人で、その2人ともが暴力等の経験があり、その経験の内容については、「祖父母や親せきからあなたへの暴力があった」「暮らしている家庭内の人間関係が陰悪だった」がともにそれぞれ1人となっています。

問11で「3. 施設や里親のもとで暮らしていた」と答えた方にお聞きます。

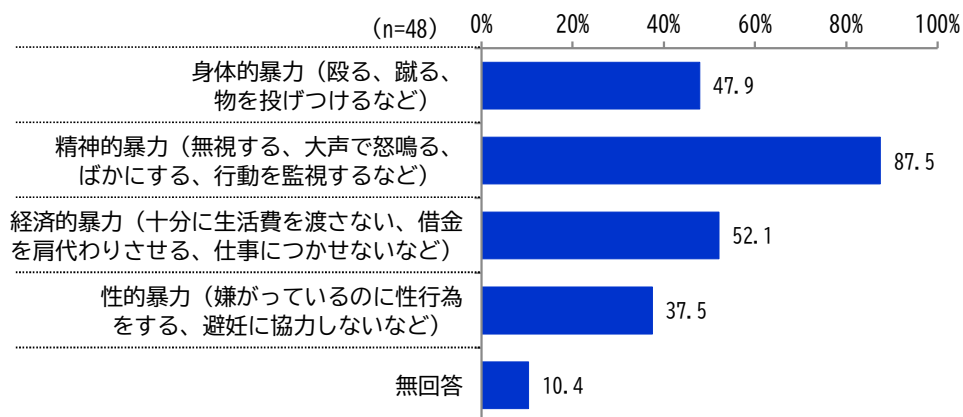
問11-3 その期間で以下のような経験がありましたか。(あてはまるものすべて)

ご自身が18歳になるまでの環境で『施設や里親のもとで暮らしていた』と答えた人が1人で、「暴力等の経験がある」があり、その経験の内容について聞いたところ、「暮らしている環境での人間関係が陰悪だった」となっています。

問12 あなたが受けた暴力を教えてください。(あてはまるものすべて)

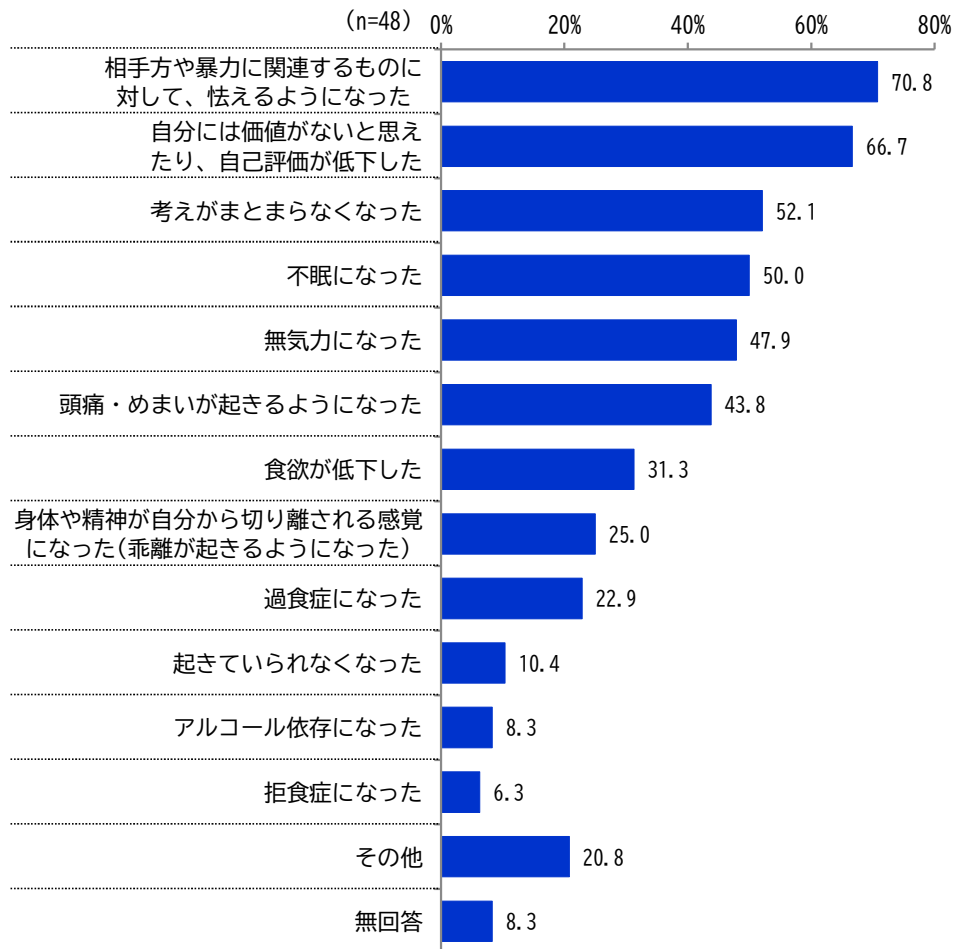
ご自身が配偶者（相手方）から受けた暴力について複数回答で聞いたところ、「精神的暴力（無視する、大声で怒鳴る、ばかにする、行動を監視するなど）」が42人（87.5%）で最も多く、次いで「経済的暴力（十分に生活費を渡さない、借金を肩代わりさせる、仕事につかせないなど）」が25人（52.1%）、「身体的暴力（殴る、蹴る、物を投げつけるなど）」が23人（47.9%）となっています。

※「配偶者（相手方）」には、事実婚や別居中の夫婦、元配偶者も含まれます。



**問 13 あなたが受けた暴力の影響によって、あなたが経験したものを教えてください。
(あてはまるものすべて)**

ご自身が受けた暴力の影響によって、ご自身が経験したものについて複数回答で聞いたところ、「相手方や暴力に関連するものに対して、怯えるようになった」が34人(70.8%)で最も多く、次いで「自分には価値がないと思えたり、自己評価が低下した」が32人(66.7%)、「考えがまとまらなくなった」が25人(52.1%)となっています。



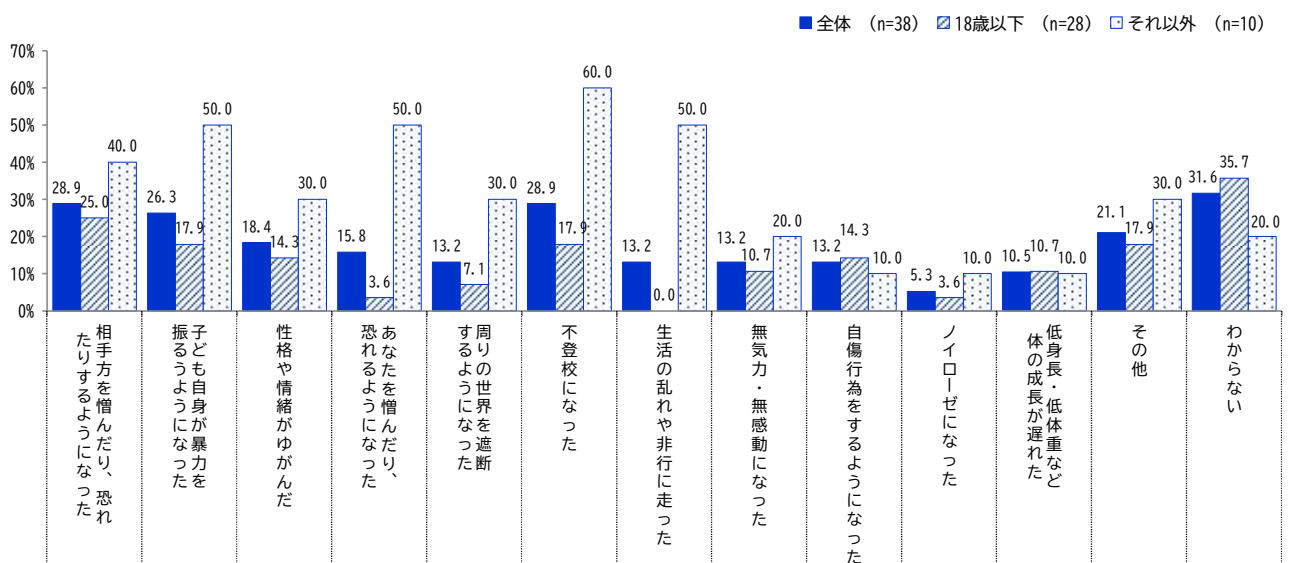
その他の自由記述の内容

- ・ 死にたくなった。(2)
- ・ 不整脈
- ・ 常に緊張感
- ・ 性的なことが嫌いになって、触られるのも無理になった。そのため相手が寝るまで夜中まで起きていることが続いていた。
- ・ 自分は一人だと感じた。実際一人で子どもを育てた。
- ・ 健康被害(喘息発作、月経の不正出血、便秘等)、PTSD、フラッシュバック、トラウマ、うつ病
- ・ PTSD、解離性障害、解離性同一性障害疑い
- ・ なんにもない。

問 14 お子さんをお持ちの方にお聞きします。暴力のある環境で育ったお子さんに見られた影響を教えてください（あてはまるものすべて）。お子さんをお持ちでない方は「14. 子どもはいない」に○をつけてください。

お子さんをお持ちと答えた人 38 人に、暴力のある環境で育ったお子さんに見られた影響について複数回答で聞いたところ、「わからない」を除くと、「相手方を憎んだり、恐れたりするようになった」「不登校になった」が 11 人（28.9%）で最も多く、次いで「子ども自身が暴力を振るうようになった」が 10 人（26.3%）となっています。

そのうち、18 歳以下の子どもがいる人 28 人に暴力のある環境で育ったお子さんに見られた影響について複数回答で聞いたところ、「わからない」を除くと、「相手方を憎んだり、恐れたりするようになった」が 7 人（25.0%）で最も多く、次いで「子ども自身が暴力を振るうようになった」「不登校になった」が 5 人（17.9%）となっています。

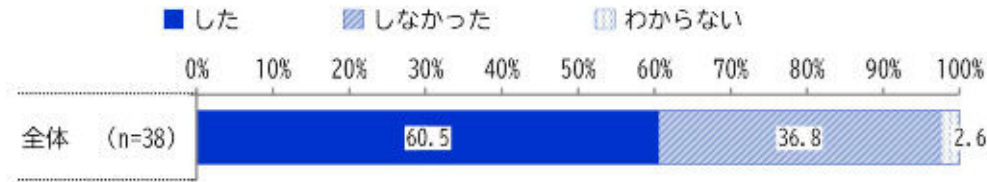


その他の自由記述の内容

- ・ 1 歳すぎて別居したため、まだよくわかってなかったかもしれない。関連があるか不明だけど、発達の遅れがある。
- ・ なるべく見せないようにしていた。我慢させることが多かった。
- ・ 夫のようにモラハラをする。
- ・ 異性恐怖症
- ・ 生後半年には家を出たのでわかりません。
- ・ 子どもは重度の知的障害があり母親が厳しく療養しようとしたため、母親だという認識が持てなくなった。
- ・ 父親に懐かなくなり、思春期以降は父親のことが嫌いになった。特に下の娘の方は今でも父のことを憎んでいる。

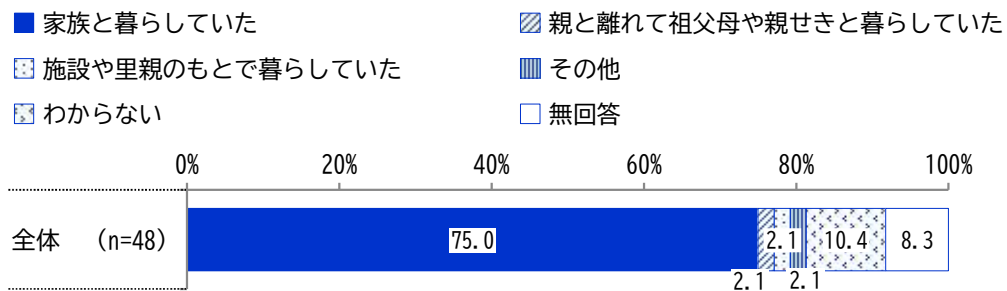
問 15 お子さんをお持ちの方にお聞きします。相手方は、お子さんに対して虐待的言動をしましたか。お子さんをお持ちでない方は「4. 子どもはいない」に○をつけてください。

お子さんをお持ちと答えた人 38 人に、相手方はお子さんに対して虐待的言動をしたかについて聞いたところ、「した」が 23 人（60.5%）で最も多く、次いで「しなかった」が 14 人（36.8%）となっています。



問 16 相手方が 18 歳になるまでに育った環境について教えてください。複数該当する場合は、一番長く暮らしていた環境に○をつけてください。

相手方が 18 歳になるまでに育った環境について聞いたところ、「家族と暮らしていた」が 36 人（75.0%）で最も多く、次いで「わからない」が 5 人（10.4%）となっています。

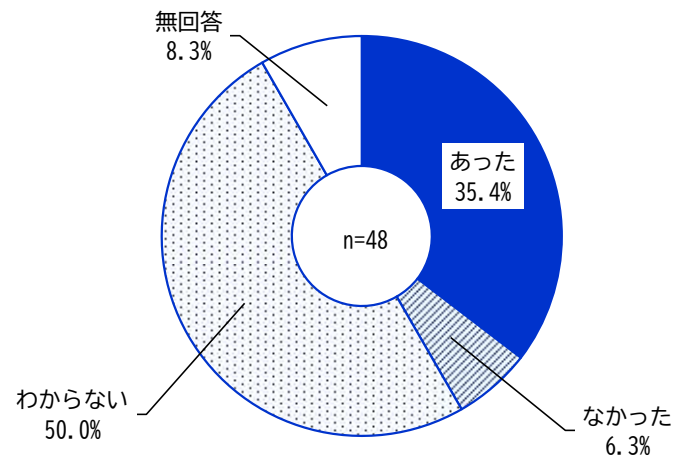


その他の自由記述の内容

- ・ 暴力団関係者のもとで生活

問17 相手方が18歳になるまでの環境で、一緒に暮らしていた人との間で暴力や関係が陰悪になることはありましたか。

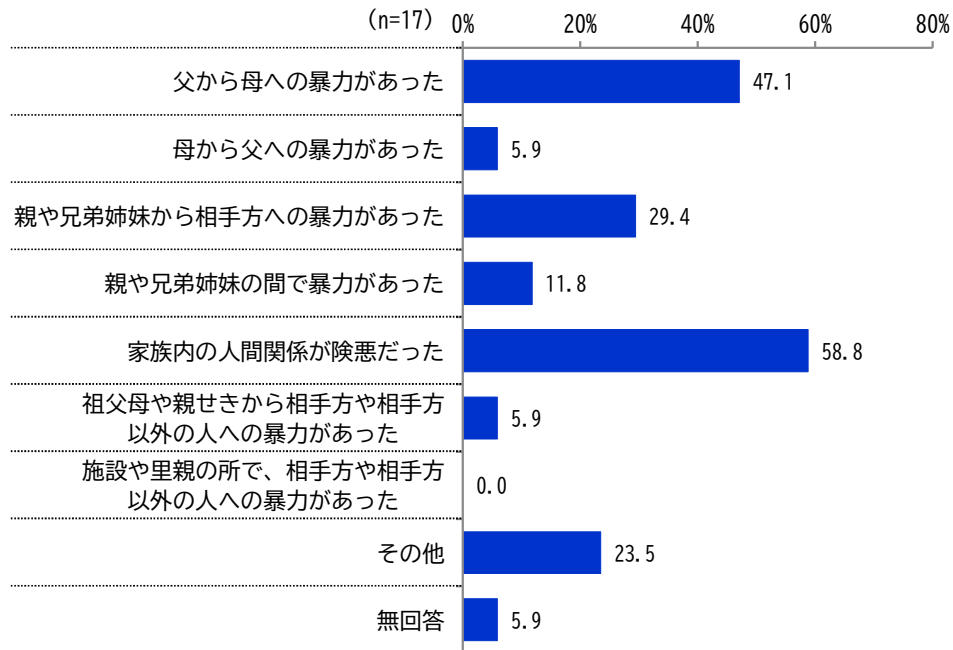
相手方が18歳になるまでに育った環境で、一緒に暮らしていた人との間での暴力等の経験について聞いたところ、「わからない」が24人(50.0%)で最も多く、次いで「あった」が17人(35.4%)、「なかった」が3人(6.3%)となっています。



問17で「あった」と答えた方にお聞きします。

問17-1 それはどのようなことですか。(あてはまるものすべて)

相手方が18歳になるまでに育った環境で、一緒に暮らしていた人との間で暴力や関係が険悪になることが『あった』と答えた人17人に、どのようなことかについて複数回答で聞いたところ、「家族内の人間関係が険悪だった」が10人(58.8%)で最も多く、次いで「父から母への暴力があった」が8人(47.1%)、「親や兄弟姉妹から相手方への暴力があった」が5人(29.4%)となっています。

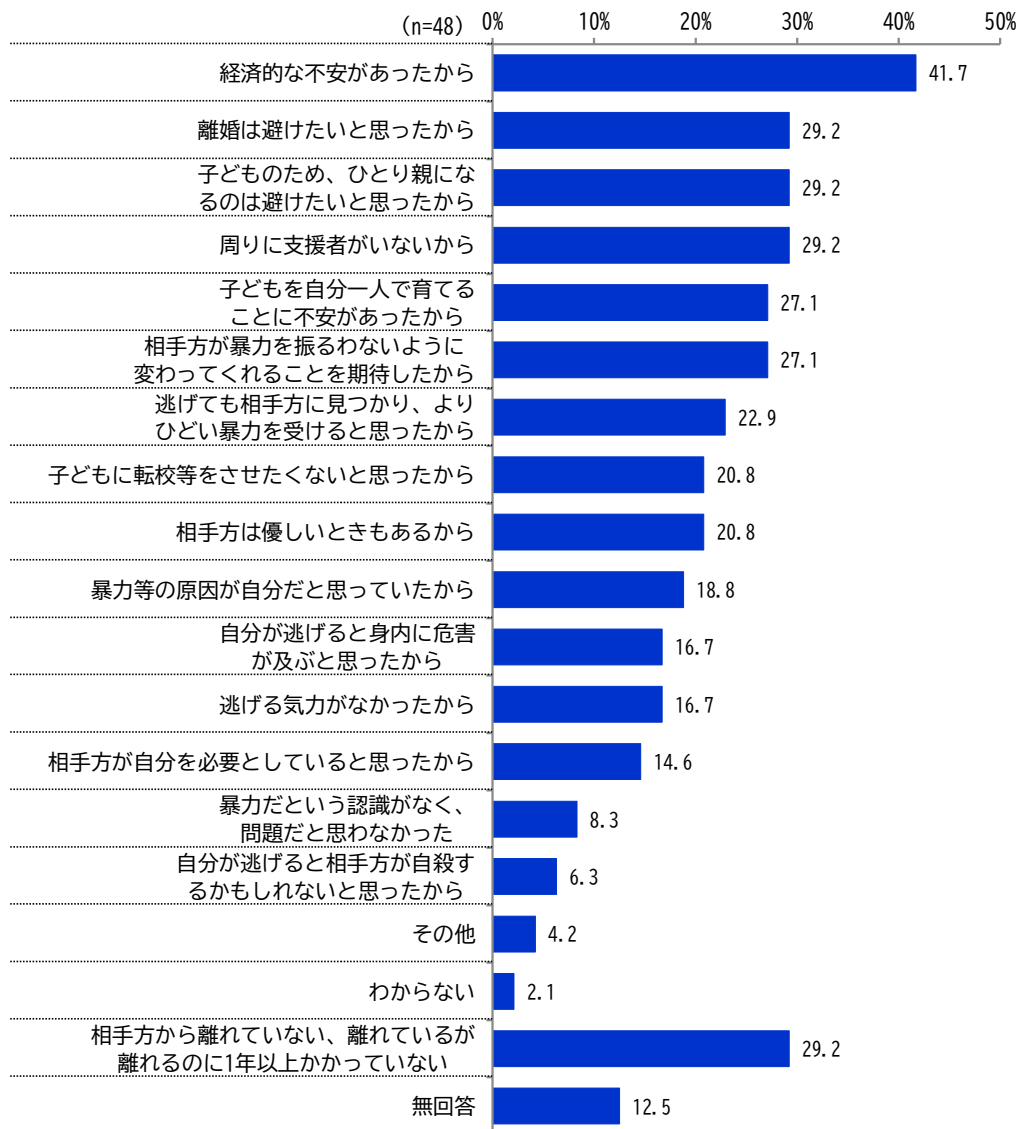


その他の自由記述の内容

- ・ 暴力団に入っていたと聞いたことがあり、手が出たり、声をあげる。
- ・ 父から子への暴力
- ・ 相手方が母へ暴力をふるっていたと聞いた。

問 18 あなたが受けた暴力に関してどこかに（誰かに）相談してから、相手方から実際に離れるまで 1 年以上かかった方はその理由を教えてください（あてはまるものすべて）。相手方から離れていない、離れているが離れるのに 1 年以上かかっていない方は「18. 相手方から離れていない、離れているが離れるのに 1 年以上かかっていない」に○をつけてください。

ご自身が受けた暴力に関してどこかに相談してから、相手方から実際に離れるまで1年以上かかった人に、その理由について複数回答で聞いたところ、「経済的な不安があったから」が20人(41.7%)で最も多く、次いで「離婚は避けたいと思ったから」「子どものため、ひとり親になるのは避けたいと思ったから」「周りに支援者がいないから」「相手方から離れていない、離れているが離れるのに1年以上かかっていない」がともに14人(29.2%)、「子どもを自分一人で育てることに不安があったから」「相手方が暴力を振るわないように変わってくれることを期待したから」がともに13人(27.1%)となっています。

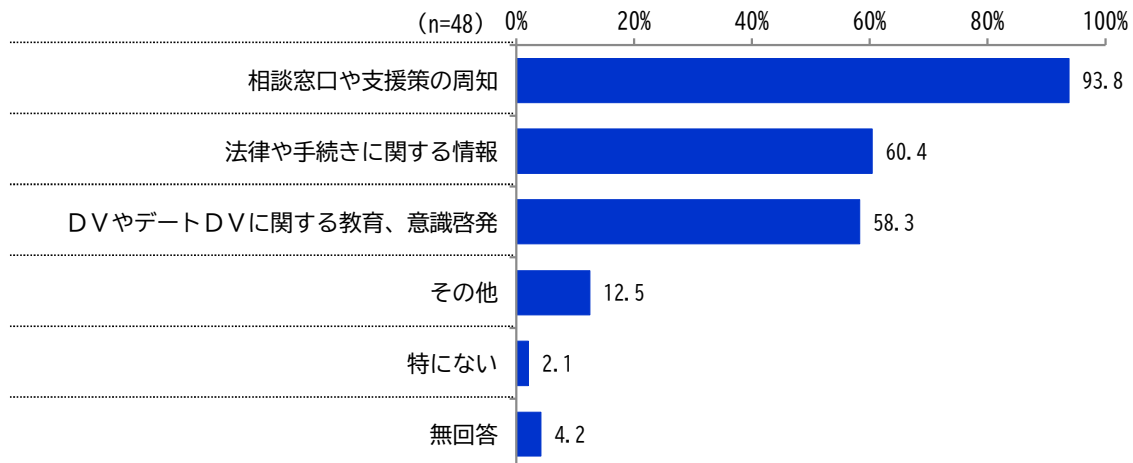


その他の自由記述の内容

- ・ 罪悪感

問 19 初めて暴力を受けた人が速やかに自分を守ったり、必要な支援につながるためには、あらかじめどのような支援が必要だと思いますか。（あてはまるものすべて）

初めて暴力を受けた人が速やかに自分を守ったり、必要な支援につながるための必要な支援について複数回答で聞いたところ、「相談窓口や支援策の周知」が45人（93.8%）で最も多く、次いで「法律や手続きに関する情報」が29人（60.4%）、「DVやデートDVに関する教育、意識啓発」が28人（58.3%）となっています。



その他の自由記述の内容

- ・ 世間に周知してくれていると、知人に愚痴などをこぼしたときに、「それはDVだよ」と気をつけられると思う。自分でもこれが当たり前だと思い、気づかなかった。
- ・ 就労相談などの経済的支援
- ・ 自助グループの周知
- ・ 24 時間体制で相談できる場所
- ・ 子育てをしているので、子どもの健診のときとかにも声をかけてほしかった。

暴力を受けた人の支援として、あなたの経験からどのような支援が必要だと思いますか。（あてはまるものすべて）

問20 相手方から離れるまでの期間の支援

問21 相手方から離れて1年以内の支援

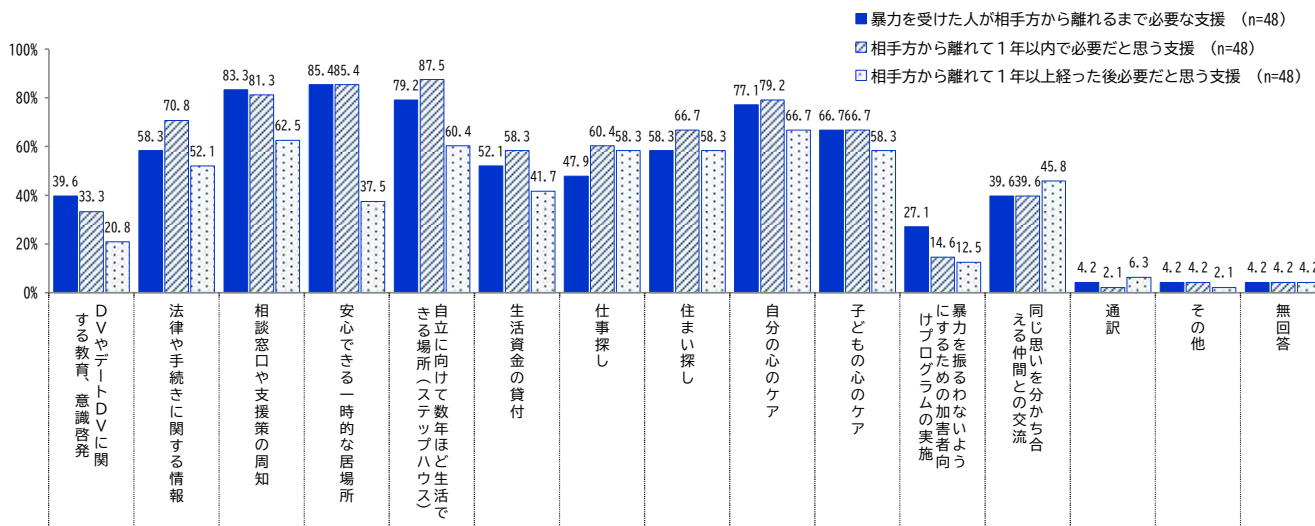
問22 相手方から離れて1年以上経った後の支援

暴力を受けた人が相手方から離れるまでに必要な支援について複数回答で聞いたところ、「安心できる一時的な居場所」が41人（85.4%）で最も多く、次いで「相談窓口や支援策の周知」が40人（83.3%）、「自立に向けて数年ほど生活できる場所（ステップハウス）」が38人（79.2%）となっています。

暴力を受けた人が相手方から離れて1年以内に必要な支援について聞いたところ、「自立に向けて数年ほど生活できる場所（ステップハウス）」が42人（87.5%）で最も多く、次いで「安心できる一時的な居場所」が41人（85.4%）、「相談窓口や支援策の周知」が39人（81.3%）となっています。

暴力を受けた人が相手方から離れて1年以上経った後に必要な支援について聞いたところ、「自分の心のケア」が32人（66.7%）で最も多く、次いで「相談窓口や支援策の周知」が30人（62.5%）、「自立に向けて数年ほど生活できる場所（ステップハウス）」が29人（60.4%）となっています。

相手方から離れるまで、離れてからの期間でみると、「DVやデートDVに関する教育、意識啓発」、「相談窓口や支援策の周知」、「安心でみる一時的な居場所」、「子どもの心のケア」、「暴力を振るわないようにするための加害者向けプログラムの実施」の割合は減少傾向、「同じ思いを分かち合える仲間との交流」の割合は増加傾向となっています。



その他の自由記述の内容

<問 20 相手方から離れるまでの期間の支援>

- ・ 自分や子どもに対しての暴力の内容、経緯、状況を公的文書で記録に残すこと
- ・ 24 時間体制で相談できるところ

<問 21 相手方から離れて 1 年以内の支援>

- ・ 必要以上に被害者として気遣われることなく、通常の社会生活を営む環境
- ・ 24 時間体制で相談できるところ

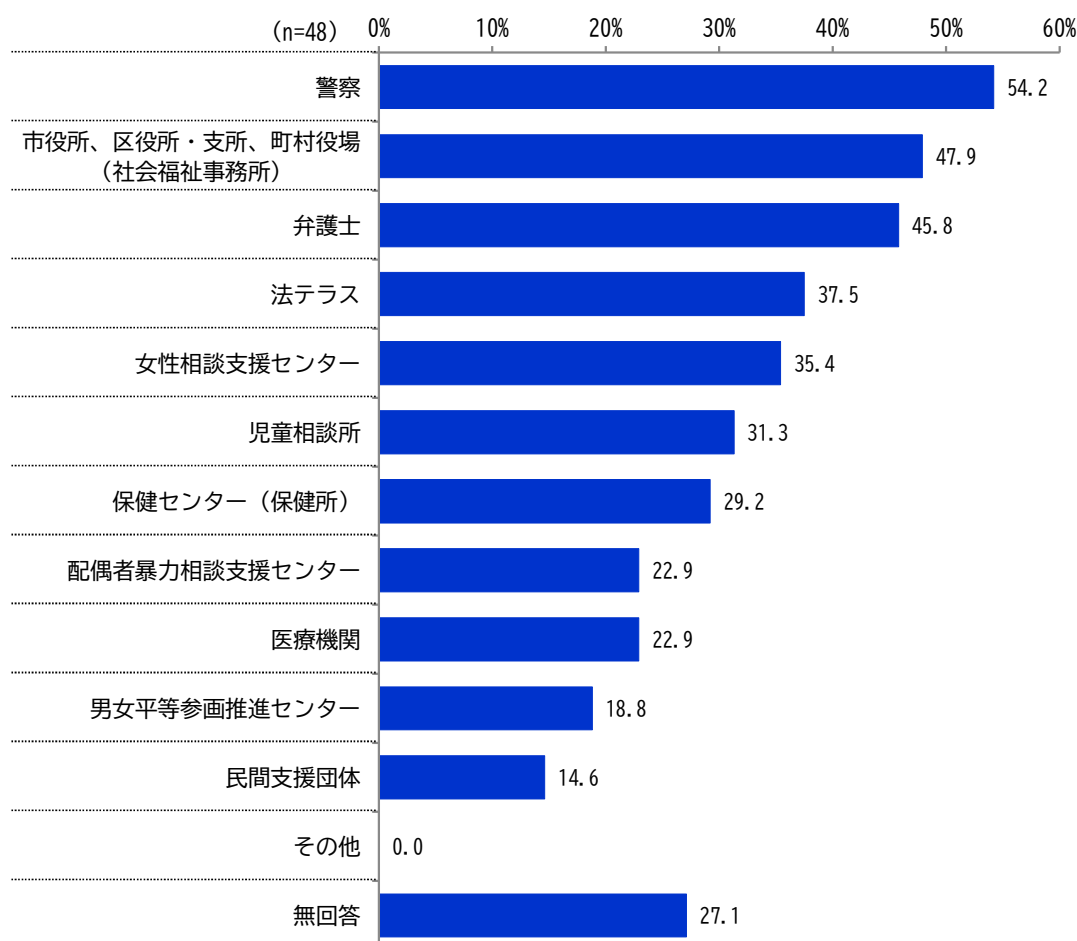
<問 22 相手方から離れて 1 年以上経った後の支援>

- ・ 24 時間体制で相談できるところ

問 23 あなたが知っている相談機関と、暴力の被害を相談した機関をそれぞれ教えてください。（あてはまるものすべて）
また、選択した相談機関のうち、初めに相談した機関を教えてください。

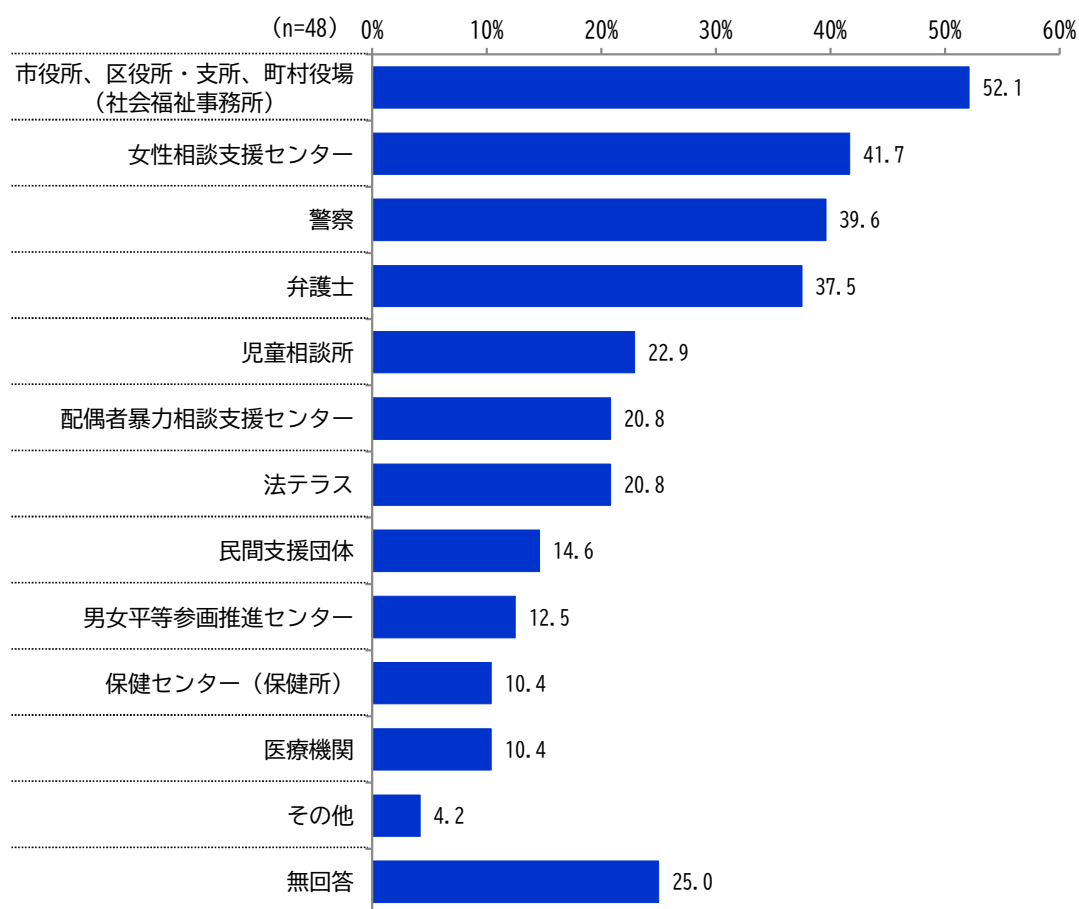
【知っている相談機関】

知っている相談機関について複数回答で聞いたところ、「警察」が26人（54.2%）で最も多く、次いで「市役所、区役所・支所、町村役場（社会福祉事務所）」が23人（47.9%）、「弁護士」が22人（45.8%）となっています。



【相談した機関】

暴力の被害を相談した機関について複数回答で聞いたところ、「市役所、区役所・支所、町村役場（社会福祉事務所）」が25人（52.1%）で最も多く、次いで「女性相談支援センター」が20人（41.7%）、「警察」が19人（39.6%）となっています。

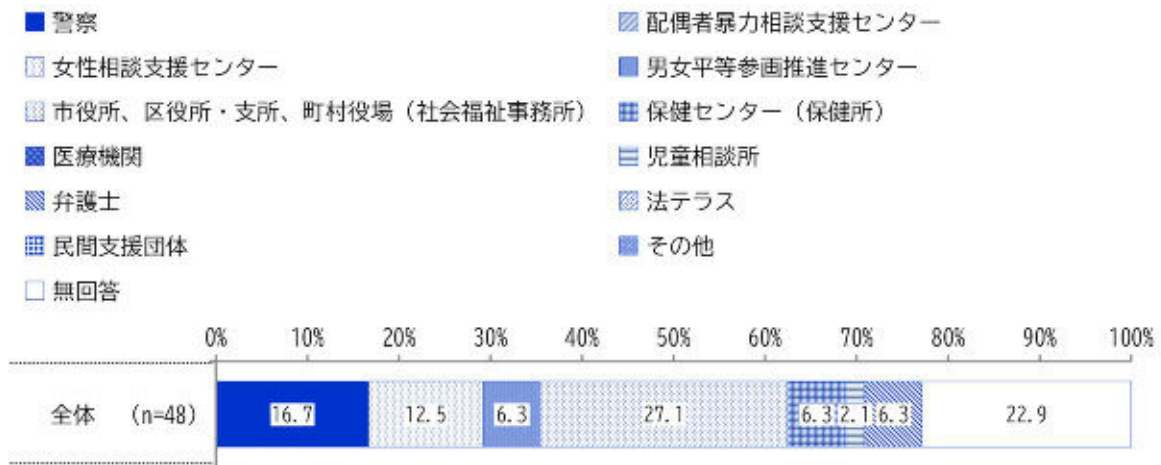


その他の自由記述の内容

- ・ インターネット

【初めに相談した機関】

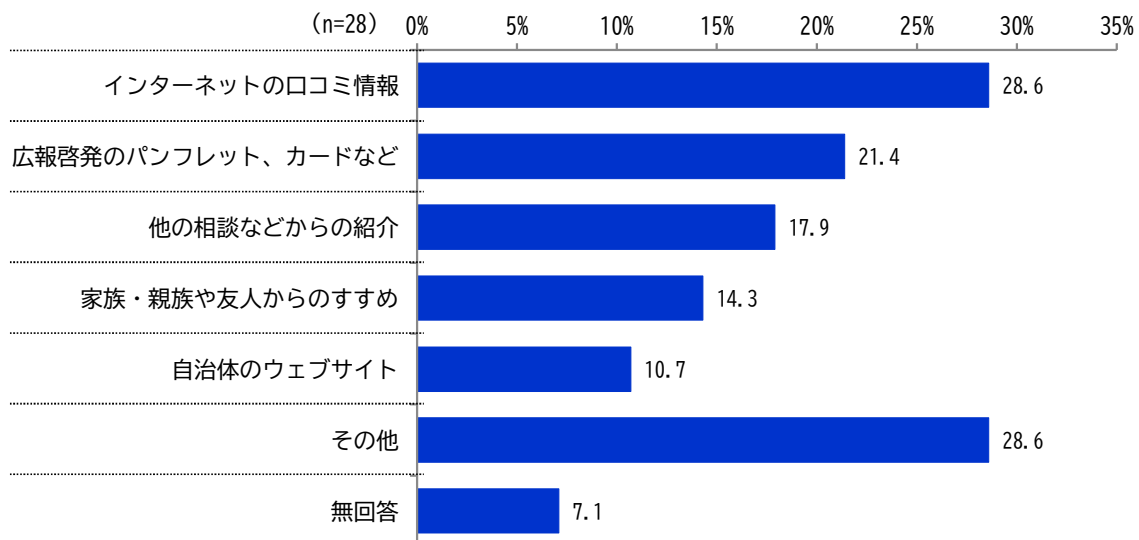
初めに相談した機関について聞いたところ、「市役所、区役所・支所、町村役場（社会福祉事務所）」が13人（27.1%）で最も多く、次いで「警察」が8人（16.7%）、「女性相談支援センター」が6人（12.5%）となっています。



問23の「知っている相談機関」などで、「配偶者暴力相談支援センター」「女性相談支援センター」「男女平等参画推進センター」「市役所、区役所・支所、町村役場（社会福祉事務所）」のいずれかを「知っている相談機関」として選択した方にお聞きします。

問23-1 あなたが選択した相談機関をどのように知りましたか。（あてはまるものすべて）

『配偶者暴力支援センター』『女性相談支援センター』『男女平等参画推進センター』『市役所、区役所、町村役場』のいずれかを選択した人28人に、相談機関をどのように知ったかについて複数回答で聞いたところ、「インターネットの口コミ情報」が8人（28.6%）で最も多く、次いで「広報啓発のパンフレット、カードなど」が6人（21.4%）、「他の相談などからの紹介」が5人（17.9%）となっています。



他の相談などからの紹介の内訳

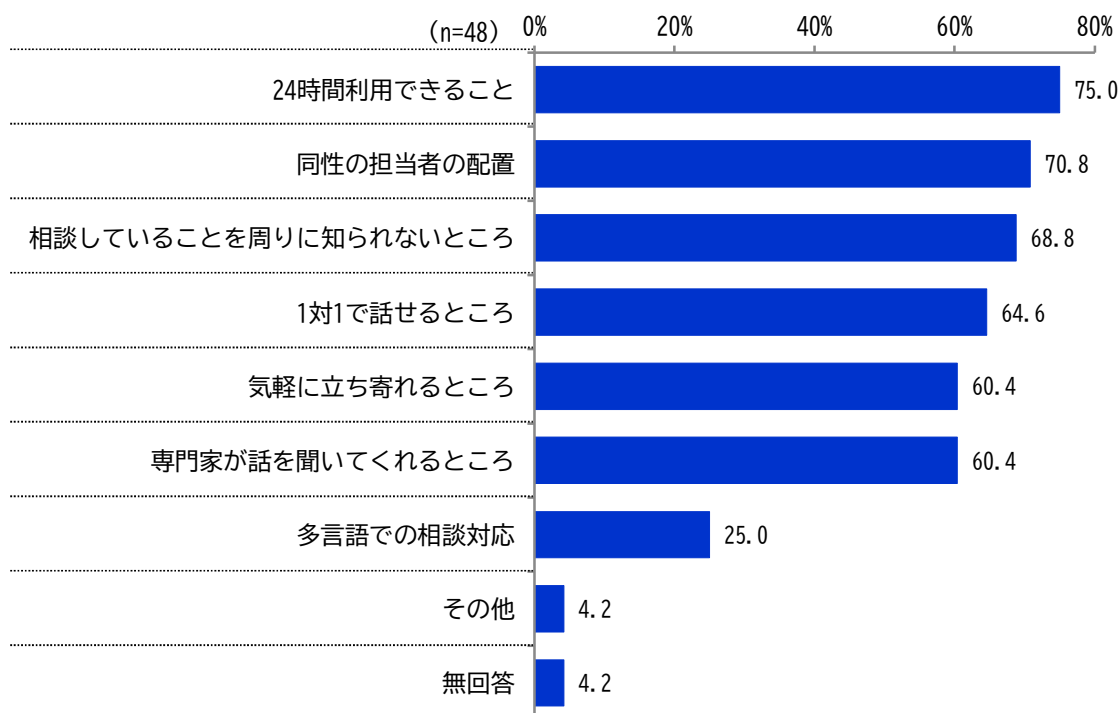
- ・ 保健所
- ・ 区の保健センターの担当保健師から女性相談につないでもらった。
- ・ 配偶者暴力相談支援センターから女性相談員を紹介してもらった。
- ・ DV相談窓口（電話）
- ・ 弁護士

その他の自由記述の内容

- ・ 広報なごや
- ・ 市役所、区役所、社会福祉事務所
- ・ 区役所は誰でも知っているため。
- ・ 子どもの手続きで区役所に訪れたときに見た。
- ・ 最初から保健師さんに相談して、保健師さんと一緒に後日区役所に相談した。それからいろいろ支援の説明を受けた。
- ・ ネットで「モラハラ」「苦しい」「助けて」「名古屋市」「愛知県」と検索した。
- ・ 良く知られているところだから。

問 24 配偶者からの暴力（DV）被害を相談しやすくするための相談体制について、あなたが必要だと思うものを教えてください。（あてはまるものすべて）

配偶者からの暴力（DV）被害を相談しやすくするための相談体制で、ご自身が必要だと思うものについて複数回答で聞いたところ、「24 時間利用できること」が 36 人（75.0%）で最も多く、次いで「同性の担当者の配置」が 34 人（70.8%）、「相談していることを周りに知られないところ」が 33 人（68.8%）となっています。



その他の自由記述の内容

- ・ 相談員もその人が不在だとすぐ相談できないため、担当を増やして欲しい。
- ・ 同じような立場の母親たちとの茶話（会）のようなもの。特に障害児のいる家庭は特別な悩みがあるため。

問 24-1 専門分野（あてはまるものすべて）

ご自身が必要だと思うもので『専門家が話をきいてくれるところ』と答えた人 29 人に、専門分野について複数回答で聞いたところ、「心理」が 24 人（82.8%）で最も多く、次いで「法律」が 23 人（79.3%）、「お金」が 21 人（72.4%）となっています。

